

B-2 北九州わくわくミュージアム（北九州都市建築博物館）概要



● 建築系都市デザイン系大学サテライトキャンパス
(JIA日韓学生WS・デザインバス九州等)



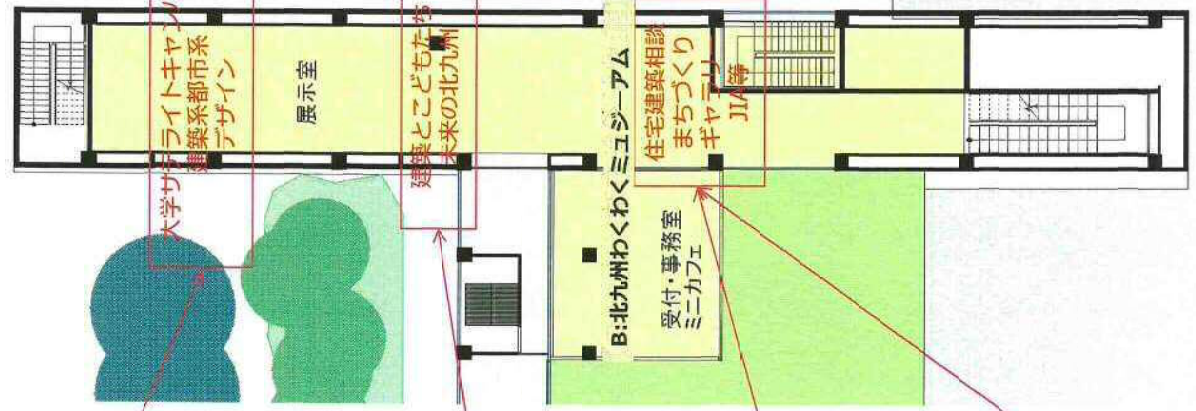
● どもと考える北九州の未来
(建築とどもたち等)



● 住宅建築相談 (戸建・集合住宅、新築・改修等)
(JIA・建築士会、建築士事務所協会等)



● まちづくり・空家、商店街再生センター
(油津商店街・行橋商店街等の事例紹介)



1階平面図



● 村野藤吾記念ギャラリー
(村野藤吾展パンフ、八幡市民会館、宇部市民会館等)



● 北九州近代建築ギャラリー
(門司港レトロ地区、九州工業大学記念講堂等)



(官営八幡製鐵所旧日本事務所、戸畑祇園大山笠等)

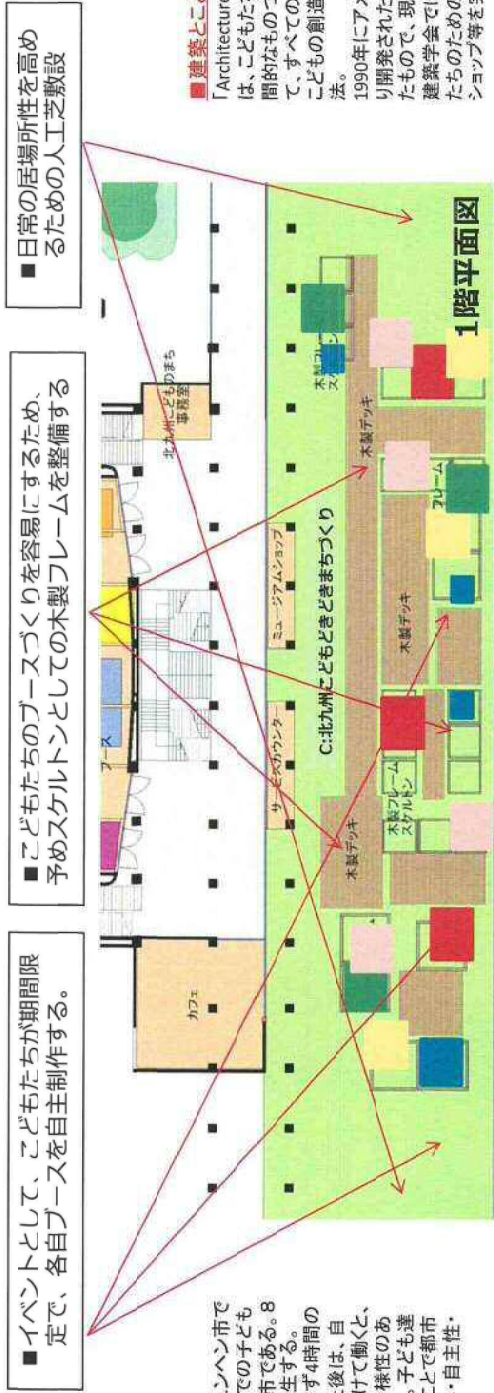
2階平面図

C-1 北九州こどものどきどきまちづくり (ミニきたきゅう)

A.北九州こどもはつらつ元気館、B.北九州わくわくミュージアムの2つの施設を連携させる機能として、現状の八幡市民会館1F屋外テラスに、C.北九州こどものどきどきまちづくり (ミニきたきゅう) を提案する。

屋外テラスの利用として、**ミニ・ミュンヘン**や**建築とこどもたち**等のように、こどもたちが建築やものづくり、まちづくりを通じて、明日の北九州の未来を考え、それをイベントとして、空間化する活動の居場所を整備する (平常時はパママ・カフェテラスとし、子育て世代の居場所としても活用する)。

整備にあたっては、木製のフレームによるスケルトンと木製デッキ、人口芝を常設し、日常は、A、B施設との連携による休憩スペース等にも活用し、イベント時は、参加するこどもたちと子育て世代の方たちの専用空間、管理とし、段ボールやペニヤ板で、仮設的に建築化して利用する。また、その際には、建築関係性、市民、大学、病院、企業等との綿密な連携を行うこととする。



ミニ・ミュンヘン
ミニ・ミュンヘンは、ドイツのミュンヘン市で行われている7歳から15歳までの子どもだけが運営する小さな仮想都市である。8月の夏休み期間3週間だけ誕生する。ここでは市民権を得るため、まず4時間の仕事と学習をし、市民権を得た後は、自由に自分の好きな仕事を見つけて働く。「ミニ」というお宝がもらえ、多様性のあがる創造的な都市をつくっていく。子ども達が協力をし、考え、実行していくことで都市になっていき、子どもの自立心・自主性・工夫する力を育む。

建築とこどもたち
「Architecture & Children 建築と子供たち」は、こどもたちに建築やまちづくりのような空間的なものづくりを体験してもらうことを通じて、すべての教科の学習を繋ぎ合わせて、こどもたちの創造性を高めていく総合教育の方法。
1990年にアメリカのアン・テラー博士により開発されたカリキュラムが日本に紹介されたもので、現在、JIA日本建築家協会や日本建築学会では、この考え方を基本にこどもたちのための建築やまちづくりのワークショップ等を実施している。



ミニ・ミュンヘンのブース (外部空間)



ミニ・ミュンヘンのブース (内部空間)



オランダにおけるこどものまち (外部空間)



人工芝による居場所形成 (小学校を改修した京都国際マンガミュージアム)

■建設：運営方法

A 北九州子どもはつらつ元気館

基本的に空調なし。部分的居住域のみの空調にて建設メンテナンスコストを下げる。

イスは部分的に撤去

耐震補強・一部解体・撤去の費用、バリアフリーの整備は市にお願いする。

民間で「北九州子ども・まちミュージアム-HAWADO-」を建設し、運用する。初期投資2億円を民間が集める。

建設・運営にあたっては市民参加、子ども参加を検討する。

有料施設とする（低額） 障害者等は減免措置

初年度、年間利用者18万人を見込む

B 北九州わくわくミュージアム（北九州都市建築博物館）

空調を行う。個別空調

耐震補強は不要、内装工事は民間とする。

運営は民間

運営組織 - 建築・建設事業者、設計者団体等が共同で運用する

原則的に利用者は無料

相談、ガイド等は有料

家賃は無料

物販、軽飲食を行う

ボランティアを主流とする

年間利用者10万人を目標とする

C 北九州子どもどきどきまぢづくり

木造、木質系の空間による屋外仮設施設。

木造でスケルトン、テラス全体に人工芝を整備。

日常時は外部のあそび場、みんものカフェとし、ミニ・ミュージアムや建築と子どもたち等のイベント時には、A、Bの組織が連携して仮設のものづくり、居場所づくり等を行う。子どもたち、子育て世代を主体とする市民、建築関係者、病院、大学、企業等の連携を図る。

■事業の特徴：工事費概要

1. 運営組織について

NPO等の民間団体による運営、集客事業とする。

2. 工事費について

工事費については基本計画の段階で詰めていくが、目標として耐震改修工事費等を別にし、2億円位でまとめられると考えます。

大型ネット工事で、まず1億円位のあそび環境工事としたりと考えます。そこから、少しずつ追加して多くの方々の支援をあおぎ、段階的に形成していく方向で検討していく。

3. 段階的整備について

本再生計画事業は、A：北九州子どもはつらつ元気館、B：北九州わくわくミュージアム、C：北九州子どもどきどきまぢづくりの3つの施設機能で構成されているが、更に、各施設ごとに、いくつかの多様な独立機能を設定しておくことで、各整備内容を予算、状況に合わせて段階的に行うことが可能となっている。以下がその基本方針である。

Oステージ1： A北九州子どもはつらつ元気館のプレイホールのネット遊具や子どもエレベーター等、大型遊具整備からはじめ、キャリア体験スペースブース等はその後、企業協力を募りながら、徐々に進めていく。

Oステージ2： 大学等との共同、産学連携。

Oステージ3： イベント、社会実験的にまず行い、持続可能性を見定めてから、常設化していく。